

はじめに

本著は、東京農業大学生物産業学部で開講された、「企業と学ぶ化粧品」の講義内容をまとめたものです。化粧品という産業は、総合的な技術の集積の上に成り立っていると思います。スキンケア化粧品においては、皮膚科学はもちろんのこと、油分と水分を肌に与えるために、乳液という剤型が必要とされるなら、そこには乳化技術が必要になります。また成分として配合する油分に関しては油脂化学の知識が必要です。メイクアップ化粧品では、色彩科学や心理学の知識も必要となります。製造や販売に関して、法的な面からは薬事法を勉強しなければなりません。このように化粧品という産業が多岐にわたるためか、日本に化粧品に関する研究を行っている大学はありますが、化粧品を学科の看板として掲げたのは、東京農業大学生物産業学部の「食品香粧学科」が初となります。

そのような背景もあり、株式会社アルピオンは食品香粧学科と2012年に共同研究をスタートさせ、さらに2013年には、広く化粧品産業の発展のために協力し合いながら貢献していこうということを目的に生物産業学部と包括連携協定を結び、今日に至っています。

今回、この講義録のもととなった「企業と学ぶ化粧品」は、そのような背景のなか、アルピオンで働く、第一線の現役メンバーがオホーツク校を訪問し、講義を実施しました。大半のメンバーにとっても教壇に立つのは初めての経験であり、本当に学んでいただきたかったことが100%伝えられたか、不安に思うところもありますが、「企業の現場」がどのように動いているかは実感してもらえたのではないかと思います。

この講義録は、2013年に行われた全15回の講義をそれぞれの章として誌上に再現しました。第1回「化粧品の歴史」は、クイズ形式でわかりやすくまとめられており、皆さんに興味深く読んでいただけるものと思います。第2回「商品開発」は、アルピオンの開発ポリシーを包み隠さずまとめました。第

3回「化粧品の効果効能」は、化粧品素材の研究とはどのようなものなのかに
ついてまとめました。第4回「化粧品の感性価値」では、新しい学問「感性
工学」について、実例を基にわかりやすく解説したつもりです。第5回「ス
キンケア概論」は、スキンケアのための正しい化粧品の使い方からスキンケア
化粧品の処方など、一般の方にも興味深く読んでもらえるのではないでしょ
うか。第6回「乳液での研究実例」は、スキンケアのなかでも、アルピオンが
得意とする乳液に関してさらに講義を行いました。引き続き、第7回「ベー
スメイク概論」、第8回「ポイントメイク概論」そして第9回目「ヘアケア・
ボディケア概論」と、各化粧品について、剤型ごとに各論を講義しました。第
10回「生産」では、研究から工場への移管、スケールアップについてまとめ
ました。第11回「薬事・品質保証」では、化粧品の法的な位置づけ、その基
盤ともなる品質保証に関してまとめました。第12回「美容評価機器」では、
店頭での化粧品の販売促進を、第13回の「宣伝・広告」は、主に雑誌媒体を
中心とした宣伝の実際を、そして第14回の「接客・営業」では、実際の店頭
での接客、そして販売を体験してもらいました。そして、最終回「経営論」は、
全体を総括して、企業の経営者として話をさせていただきました。

いずれの講義も、実際にアルピオンで働く第一線のメンバーが講師にあた
りました。実際の企業がどのように化粧品を生み出していくのかが、理解でき
ると思います。ただし、あくまでもアルピオンの実例であることは注意点とし
て挙げておきます。日本のみならず、世界には数多の化粧品会社があります。
それぞれの化粧品会社が、それぞれの特性を活かしながら企業として活躍し
ています。あくまでもアルピオンの事例として参考にさせていただきたいと思
います。

2015年9月

株式会社アルピオン 代表取締役社長
東京農業大学客員教授
小林 章一